まい　これくしおん・「こけし」by　宮崎　紀

わが野生王国

PHOTO●久田雅夫（栄町５丁目）

ひとっ子一人いない闇の山中でカメラを構えて待つ。「おれは、おまえ達の味方なんだ。姿を見せておくれ。」祈るようにして待つ忍耐力はなみではない。大自然の中に生きる野生動物の健気さが久田雅夫さん（栄町５丁目）にシャッターを切らせる。集った一枚一枚の写真は動物と久田さんの交友録であり、動物の表情にも久田さんの動物に対するやさしさが映っている。

ホンドテン（東京・奥多摩）

エゾシマリス（北海道・大雪山）

イノシシ（兵庫・六甲山）

ホンドテン（東京・奥多摩）

ムササビ（東京・奥多摩）

タヌキ（東京・奥多摩）

ツシマヤマネコ（長崎・対馬）

ハクビシン（高知・須崎）

イタチ（高知・土佐清水）

シカ（東京・奥多摩）

水琴窟 わが立川にあり

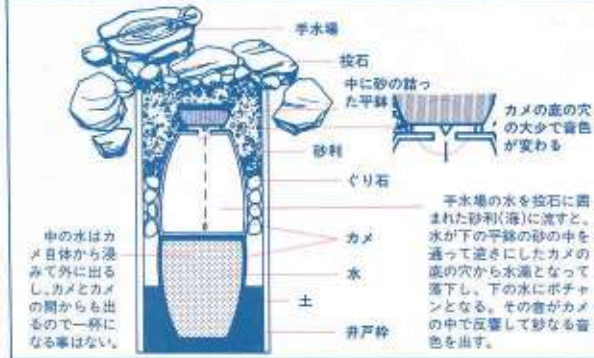
その昔、お殿さまが庭の片隅にしつらえ、滴水の妙音を楽しんだという幻の「水琴窟」。柏町の小林玉來さんは自邸の庭にこれを再現。今、静かな注目をあびて……

水琴窟。すいきんくつ・と呼びます。文字どおり、水・琴・窟とありますから、なにやら音の出る仕掛けがほどこされているに違いありません。

水琴窟は今でこそ博物館行きの珍品となっていますが、かつてはお屋敷の庭の片隅などに、庭師たちが工妙凝らし、しつらえたものでした。NHKが取材し、「天声人語」にも紹介されたので、記憶とどめる方もおありでしょうか。

この今では殆ど残されていない江戸時代の風流が、立川は五日市街道沿いに再現。妙なる音の空間が、時を超え、喧噪の世によみがえったのであります。

水琴窟は、図解で示しているように、甕の底にあいている小さな穴から水が滴り、その一滴一滴が甕の洞内にこだまする、素朴にも快い音色を楽しむのです。

水の滴る音といえども、雨蛙が飛びこむ「ポッチャン！」なんて俗な音じゃあない。さりとて、と り澄ましたウソっぽい、お上品さなんて、ものでもございません。まさに、「音の響」であります。

音の耳ききは、聴くものそれぞれの心境によって異るのは当然でしょうが、編集子には、「キーン、カン！」と、鋭く耳底を抉ってくるようにさえ思えたのでした。

そう、音の耳ききとは、「聴く耳」、「響く心」のありかが問題なのだ。聴く耳、響く心、魂の楽、をもとめて、どれほどの長い時を彷徨いつづけたことだろうか。

吾がミ・ュ・ー・ズ・の女神に恋憬れ、いつもいつも寄せる想いは、ほんの一瞬に感じ取る「魂の楽」。

それさえあれば……と、問いつづけたものでありました。

その心の旅の一里程に、出逢った音が、この水琴窟であります。

外の景色はまさに冬。しかし、心は春のように胸はずませ、玉來さんの楽宅を訪うたのでした。

あなたにも時として、枯れ果て打ちひしがれるような寂寥感に、さいなまれることおありでしょ？

我等凡人、いつも、いつも、魂の底から希望に満ちきった喜びが湧いてくるなんてこと、そう矢鱈とあるもんじゃあございません。

そんな時、街なかの、騒がしさから一歩出て、水琴窟の「音」を心耳に聴いてみれば好い。

水枯れた魂の奥底に、ほうら、すこしずつ「キーン、カン、コンキン……」と、遠いどこかで忘れてきてしまった何かが、聞こえてくるではありませんか。

まずは、庭の一隅に静かに佇む氏のお顔をとくと。それから、妙なる音の世界をお楽しみください。

新連載 ❶ 立川のモニュメント

〈足を組む女〉像……曙町二丁目

記憶にとどめておきたいことへの思いを未来の人々にも伝えられたら。そんな願い込もるモニュメント。立川にもあります。

立川駅北口ロータリーにある若山牧水の歌碑はあまりにも有名だが、その牧水の歌碑よりやや奥、三菱銀行側に、ブロンズの少女像があることを知っている人は少ないようだ。

夜はもちろんのこと、タクシーがひっきりなしに並ぶ昼間も、その少女像に目を留める人は少ないのではないだろうか。

像は等身大で台座の部分が80㎝ぐらいだから、それほど大きなものではない。何かを考えているのか、ショートカットの小さな頭と切れ長の目が印象的だが、「現代に生きる発剌とした女性」を表わしている。

この像は、東京立川ロータリークラブが創立25周年記念として、昭和59年12月に立川市に寄贈したもの。ますます発展する立川のシンボルになればとの願いがひそかに込められているが、残念ながらその希望は今のところ実現されていないようである。

可愛いおヘソのあたりが、いくらか茶色くなっているのが女の子の像だけに、ちょっぴりかわいそうにも感じられるのではあるが。今にきっと渋谷の忠犬ハチ公の像のように、待ち合わせ場所のシンボルとして、人々の心にとどめられる日は近いことを確信させられる思いがの像には込められているようだ。（H・H）

漢字テスト⑬

空欄に一字押入を試みよ。

明　眸　□　歯

徙　家　忘　□

表紙は語る

砂川の阿豆佐味天神社の宮司、宮崎糺さんが「こけし」を集め始めたのが三十年前。旅の思い出にと手に入れた一本の「こけし」の純粋で素朴な美しさに魅せられたという。

宮崎さんが集めているのは伝統こけし。昔から東北の湯治場で作られているものだが、何か所かある産地でそれぞれに特徴があり、作者によっても微妙に表情が変っていて蒐集家にとってはこのちがいがたまらないという。宮崎さんは土地や作者を丹念に調べて足を運び、直接作者に会って手に入れる蒐集方法。それだけに一本一本への愛着は深い。三十年間で、一人の作者の、子供、孫と三代にわたる作品が並んでしまう場合もある。

『表情の違いがいいんです』と目を細める顔にやさしさがあふれる。

他に全国各地の笠の分布、種類、作り方など写真で記録したものも集めているがこちらは最近一冊の本になったというから、蒐集家というより研究家の域に達している。

真如苑だより

暦のうえではもう春ですが、寒さはいちだんときびしくなるようです。おなじみになりました真如苑の精舎参観、今月も暖かい気持でお迎えさせて頂きます。お気軽にお出掛けください。

■日時　2月21日(土)
　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。

漢字テスト・答

明眸皓歯
明るい眸と真っ白な歯。美人の伝統的形容。

徙家忘妻
物忘れのひどい人、健忘症のたとえ。徙は、移すの意。

？立川クイズ

今月は立川市の人口についてです。ズバリ立川市の男女の人口の比率はどうなっているでしょう。①男性が多い②女性が多い③同じ

工房から

●「幻の」と呼ぶにふさわしい水琴窟。何にしろ良い音を出すための工夫は大へん。一旦土に全部埋めてしまわないとどんな音が出るかわからない。試行錯誤のすえに出来るのだから風流もなまなかなことではない。しかしその音はまさに妙音。ちょっと詳しく図にしてみたので興味のある方はお試しあれ。●新連載の「立川のモニュメント」。よく立川には碑がないという話を聞く。はたしてそうなのかという疑問からのスタート。万感込もるモニュメントもどこかで自らの主張をしているはずだ。ご存知の方はご一報ください。●可愛い「こけし」は奥が深いようだ。呼びかたも「こけし」と平仮名で三文字が正しい呼びかたígy ただそうだ。●早春の空青く澄み　えくてびあん

（編集）石塚敦美　大野祐子　加賀桂子　神山清子　隅川理　田中恵子　原田礼子　東島弘子
（写真）天野武男　坂横一明　吉田義治
スタジオ269

月刊えくてびあん　第31号
昭和六十二年二月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)0082
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

立川 御馳走館

創る人がいて、味わう人がいる。この華麗なる当り前の世界—8

正真正銘、活魚の美味しさを味わうなら「紀ノ川」である。ダテに水槽が飾ってあるのではない、その日に獲れた魚が泳ぎまわっているのを、あざやかな包丁さばきで味わうことが出来る。原茂弘行さんの包丁は、関西で六年の修業に裏打ちされた本格。まだまだ、寒さが続く候、「ふぐ鍋」の冴えたところなど味わいどころか。柴崎町３丁目、グルメートタカオビル２Ｆ ☎25－5825

水槽の中には珍しい魚もいる。イカは特に水槽で飼うのがむずかしいと言われているだけに活きの良さは貴重だ。

活魚料理は手早さが決め手。原茂さんの包丁さばきは見事だ。

舟盛り（７人前）
24,000円

ふぐ鍋
（４人前）
16,000円